



医療機器レギュラトリーサイエンス研究会

第18回研究会開催案内

- 開催日時 : 2018年 6月 22日(金) 14:00~18:00
- 場所 : (国研)産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館 11階 会議室
〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-7(新橋からゆりかもめでテレコムセンター下車)
- 協賛 : (一社)日本医工ものづくりコモンズ、(一社)日本ファインセラミックス協会
(一社)医療イノベーション神戸連携システム(MIKGS)、(株)MICメディカル
- 参加申込 : 会員登録(下記 URL より)

14:00-14:20	総会 会長 山根隆志 (以下敬称略)
講演1 14:20-15:20 含質疑応答	「医療機器へのAI導入への期待とレギュラトリーサイエンスの動向」 産業技術総合研究所 健康工学研究部門副部門長 鎮西清行 AI(人工知能)技術は医療にも変革をもたらすことは確実である。その能力への期待の高さと表裏一体の様々な不安が言われている。昨年 2017 年には日本でも学界・行政による検討が多く行われ、その幾つかに委員、事務局として参加する機会を得た。これらの動きについて紹介する。
15:20-15:40	休憩
講演2 15:40-16:40 含質疑応答	「わが国の在宅透析が抱える問題点」 医療法人社団清永会 本町矢吹クリニック院長 日本透析医学会理事、在宅血液透析研究会事務局 政金生人 わが国で慢性透析を受けている患者は、2016 年末で約 33 万人に達しているが、その 95% 以上の患者が透析施設で通院や入院透析を受けている。近年様々な医療の分野で、在宅治療への舵きりがなされているが、わが国では在宅でできる腹膜透析と在宅血液透析は合わせても 2.9%で、世界で最も低いレベルである。在宅血液透析は生活の質を担保しつつ、透析量を増やす有効な手段として世界的に発達してきている。しかしながら、わが国の在宅血液透析患者数は 635 人で増加はしているものの、全体の 0.2%程度である。なぜわが国では腹膜透析をはじめとして、在宅透析が増えないのであろうか。本講演では、わが国の在宅透析が抱える問題について様々な視点から考察し、在宅透析を推進していくための方策を論じたい。
講演3 16:40-17:40 含質疑応答	「救急医療及び災害医療のための可搬型小型血液浄化システムの開発」 山梨大学医学部救急集中治療医学講座 教授 日本急性血液浄化学会理事長、元日本人工臓器学会理事長 松田兼一 本システムはシステムの単なるスケールダウンではなく 3 つの新しいコンセプトを取り入れている。1. 血液濾過法の採用、2. 人工心臓で用いられる遠心ポンプの採用、3. 極細径中空糸を用いた血液濾過器の採用である。これら 3 つのコンセプトにつき、発想に到った経緯、採用理由について順を追って報告する。また現在の開発状況と問題点についても報告する。
17:40-18:00	閉会 副会長 廣瀬志弘
18:15-19:30	交流会 (参加費 3,000 円、当日受付)

本会は産総研コンソーシアム「医療機器レギュラトリーサイエンス研究会」として年2回の講演会を実施しています。年会費は、一般個人会員6,000円、法人会員(企業、団体で1口参加3人まで)18,000円、公的機関個人会員(大学、官庁、独法)無料となっています。

【コンソーシアム事務局】
 国立研究開発法人産業技術総合研究所
 健康工学研究部門
 〒305-8564 茨城県つくば市並木1-2-1

会長 山根 隆志 (産総研 名誉リサーチャー)
 副会長 廣瀬 志弘 (産総研 上級主任研究員)
 URL : <http://rs-seminar.cons.aist.go.jp/>
 E-mail : rs-seminar-ml@aist.go.jp